

シンガポール 2010年7月15日(木曜日)

松本市が観光セミナーを開催、海外単独は初[観光]

長野県松本市が13日、シンガポールで観光誘致セミナーを開催した。同市が当地で同様のイベントを開催するのは初めて。

一般社団法人松本観光コンベンション協会の赤廣三郎事務局長は同日、NNAの取材に対し「これまで日本全国を対象とした観光イベントの一環で台湾でセミナーを実施したことはあるが、当市が主体となり海外で実施するのは初めて」と話した。最初にシンガポールで開催したことについて、同協会の山石徹誘致促進課長は「シンガポールは日本観光に慣れている。最近の市町村合併を受け、松本市の周辺部も含めて新しい観光ルートを紹介することができるようになったので、それをアピールしたい。同時に、マレーシア、インドネシアからの観光客誘引の相乗効果に期待している」と説明した。松本市は関東、中部、北陸からほぼ同じ時間で移動できる地の利があることから、10月末からの羽田空港国際化も観光客誘引の起爆剤になると期待しているという。

セミナーには地元の旅行会社や航空会社、メディアなど約50人が出席し、観光地や名産品、伝統工芸などを紹介。当初の予定より多くの旅行関係者が集まったことを受け、山石課長は「熱意を感じる。日本への関心の高さを改めて実感した」と話した。

日本政府観光局(JNTO)によると、最近の観光客の傾向として東北や中部ツアーへの関心が集まっているほか、レンタカーを借りて国内をめぐるなど個人旅行者も増えているという。